

2019. 6. 5

上毛新聞 社会面 (20)

アフリカに日本農業を

館林 10カ国の普及員が農家視察



峰岸さん(左)からトマト栽培を学ぶ参加者

日本の効率的な野菜栽培技術を学ぼうと、ジンバブエなどアフリカ10カ国の普及員ら11人が4日、館林市内の農家を訪れ、施肥やハウス内の温度管理などの様子を視察した。

トマト農家の峰岸茂夫さん(62)＝同市花山町＝は「水と肥料を与える頻度に気を付けてほしい」と助言した。参加者は母国で技術を生かそうと、積極的に質問していた。

ジンバブエ農畜産物局職員の子グホオネ・マイルスさん(38)は「1本の苗から多くのトマトが実を付けていた。技術を生かしてジンバブエでの収穫量を上げたい」と話した。

国際協力機構(JICA)が行う農業研修の一環で、県内での視察は4～8日の5日間。藤岡、甘楽、上野の各市町村を訪れ、農業関連施設などを視察する。